

市では、環境に配慮したふるさとづくりを進めています。家庭からする剪定枝や草、落ち葉などを再資源化するため、平成12年から「野田市堆肥センター」を稼働しました。センターで出来る堆肥を農家で活用していただき、有機肥料による農産物の生産を支援、推進していますが、同時にごみ減量にもつながっているなど、一石二鳥の効果が現れています。

【農産物をブランド化へ1】

自然環境にも配慮



有機堆肥で作る安全安心農産物



有機肥料を使ったトマト栽培



自信作のちばエコ米

より安心な 枝豆の生産へ

J A ちば県北旭出荷組合では5年前、組合員全員が枝豆でエコファーマー認定を取得しました。杉下さんもその一人です。

「市の堆肥センターが開設して以来、以前から使っていた牛ふん堆肥に加え、剪定枝堆肥を使用することでエコにも協力でき、かつ私たちの畑の地力がアップされ助かっております。」

また、枝豆は肥料の影響が大きいのですが、なるべく有機栽培に近い形にしようとして化学肥料の使用を控え、堆肥を中心としたものになっているので、徐々に品



杉下光子さん
(目吹)

質が安定した
良いものが採れる
ようになって来ました」

農薬も、エコファーマーの使用基準の約半分まで減らして「安全・安心」な枝豆を収穫できるよう、心がけているそうです。

「皆さんの健康をサポート出来るよう、より良く、より安心して食べられるものを提供することが、生産者の使命だと考えています」

より安心で 安全な農業へ

戦後、科学技術の発達により、さまざまな農薬や化学肥料が誕生し、農家の労力を軽減するとともに、病害虫などの被害を受けにくくし、結果、高品質な作物が大量に採れるようになった。

しかし農薬や化学肥料に頼った農業は、時には自然環境に有害で、私たちの健康にも不安をもたらしたため平成11年には「持続農業法」が制定され、環境と調和した持続的な農業生産を進めることが国の方針となりました。

農薬や化学肥料をできる限り減らすことで、安全な農産物を食べることができ、さまざまな生物と共生した、豊かな自然を取り戻すことができるのです。

堆肥センターの役割とは

一方、市では、持続的農業の導